

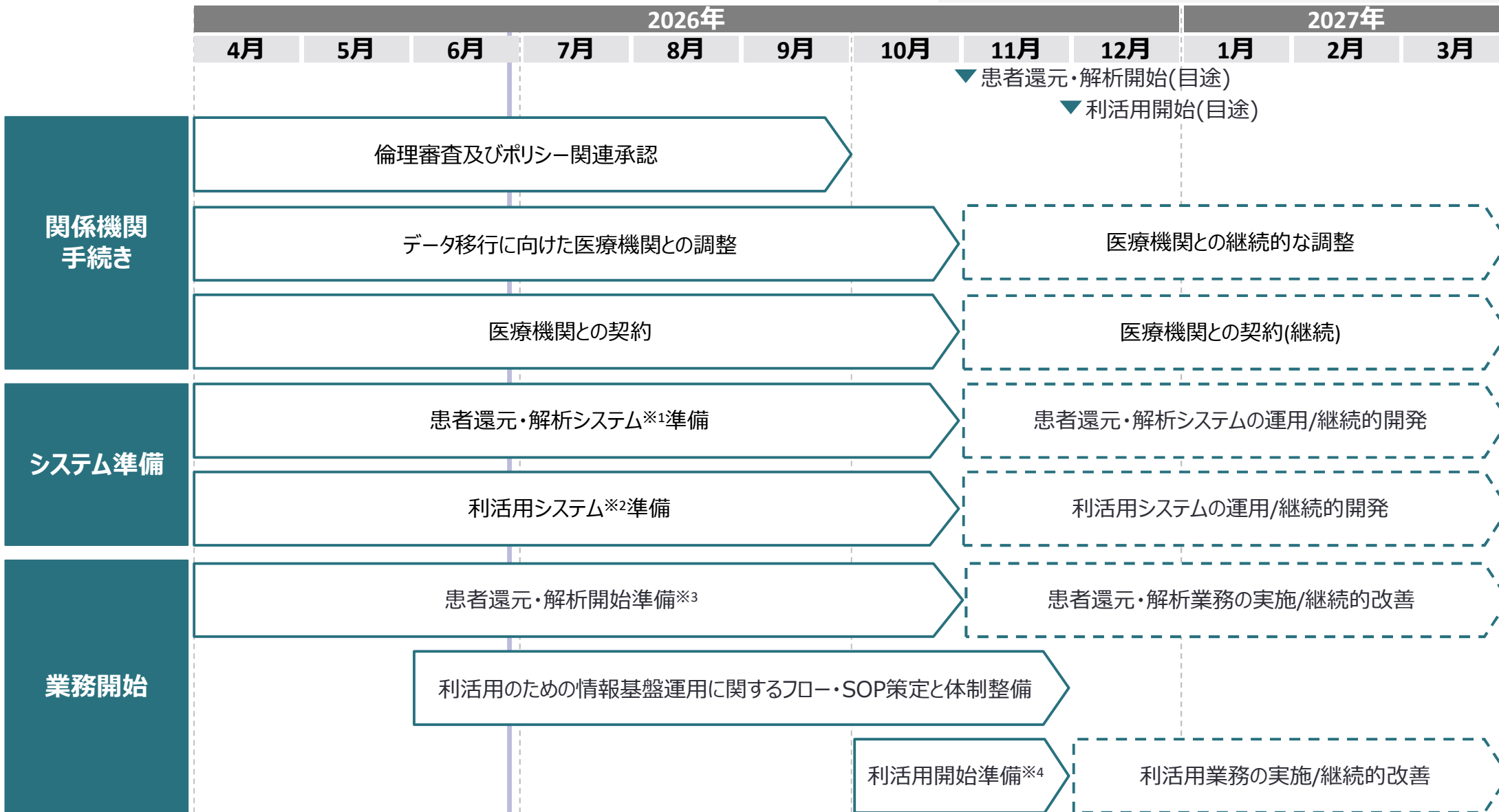
第26回全ゲノム解析等の推進に関する 専門委員会	資料 3
令和8年6月29日	

GeMJの検討状況

10月及び11月頃の患者還元・解析並びに利活用の開始を目指し、準備を進める

凡例： 業務開始までに対応する事項

業務開始後も継続的に対応する事項



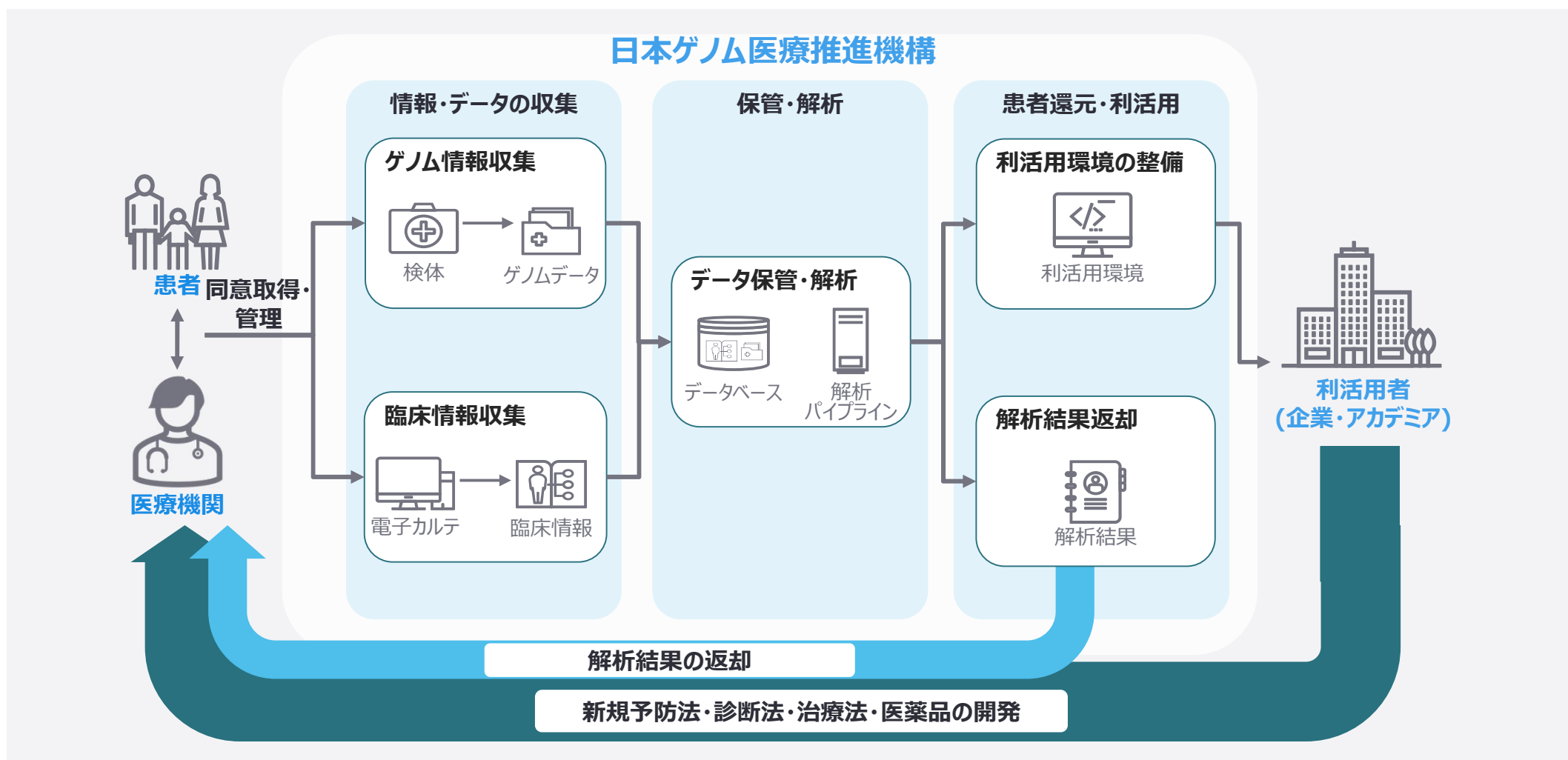
※1：GeMJレポートを提供可能なシステム ※3：GeMJレポートの作成体制整備等
 ※2：利活用申請を受付可能なシステム ※4：コンソーシアム立上・利活用審査委員会運営・利活用申請受付等の準備

參考資料

日本ゲノム医療推進機構の機能・役割

日本ゲノム医療推進機構の機能・役割の概要

- 全ゲノム解析等の結果・成果の速やかな患者還元支援
- 個別化医療の推進支援
- 質の高い情報基盤の構築と運用
- 患者・市民参画推進、国民向けの情報発信・周知活動支援
- ELSI (Ethical, Legal and Social Issues)支援
- 人材育成支援



中期事業計画の概要(1/2)

項目	概要
GeMJによる 統一方法 管理	<ul style="list-style-type: none">GeMJは、「関連する医療機関が全ゲノム解析を実施する際の研究参加に係る同意説明から解析結果の検討に至るまでの一連の過程及びその後の利活用」について、統一的な方法をAMED研究班等に示し、実施状況を定期的にモニタリングする
同意情報 管理	<ul style="list-style-type: none">GeMJは、本事業に係る同意説明文書一式（代諾フォーム、同意撤回書含む）を作成したのち、AMED研究班等関連する医療機関に周知し、その利用を徹底する。患者及び代諾者の同意を取得したAMED研究班等に関連する医療機関は、医療機関ポータルを通じて、GeMJに同意状況の情報連携を行い、同意の変更・撤回等があった場合には、適切にGeMJに情報共有することとする。また、GeMJは当該同意情報を管理し、適切な情報管理を徹底する。
シーケンス 解析 一元管理	<ul style="list-style-type: none">シーケンス解析は、GeMJの管理下、シーケンス受託企業にて執り行うことで、品質及びセキュリティを確保することを目指す。

中期事業計画の概要(2/2)

項目	概要
臨床情報 収集	<ul style="list-style-type: none">ゲノム情報を最大限に活かすためには、病理組織像、診断用画像を含めた経時的な臨床情報などを統合したマルチモーダル・データ基盤の整備が不可欠であり、遺伝子型と表現型を横断的に解析することで精密医療の高度化に寄与するGeMJは、AI等の最新技術を積極的に活用することも含めて電子カルテ等からの自動収集の仕組みを検討し、検証を行ったうえで、自動収集システムを構築し、段階的に導入施設数を増やす。
利活用	<ul style="list-style-type: none">利活用可能な情報の拡充と運用基盤の強化として、時系列でマルチモーダルな臨床情報の収集・格納、オミックス情報、バイオバンク連携、リコンタクト体制の整備を行い、生データ生成後の速やかな利活用を可能とする仕組みを構築する。蓄積されたデータの利活用を促進するため、GeMJは、利活用に係るルール及び体制の整備を進める。先行する海外事例を参考としつつ、充実した情報・検体が利活用できる環境と、高い利便性を備えた利活用基盤の構築を図る。
対象疾患 (研究)	<ul style="list-style-type: none">本事業における全ゲノム解析を行う対象については、既存の検査による成果が期待しにくい希少がん等や難病において全ゲノム解析が有効と期待される症例に重点的に対応する。なお、AMED研究等の成果や利活用者の意見を踏まえて、対象疾患の追加及び見直しを検討する。また、全ゲノム解析技術を用いて行う、疾患の理解を深め診断・治療・予防法の基盤となる研究、遺伝学的検査での応用を中心とした研究、分子的残存病変やがん細胞における遺伝子変異に由来した新たながん抗原に対するワクチン治療の研究開発等実用化を目指した研究・開発を推進する。

日本ゲノム医療推進機構のビジョン

